

# 臨床歯科学入門

責任者：岸 光男 教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）

副責任者：藤原 尚樹 准教授（解剖学講座 機能形態学分野）

担当講座（分野）： 口腔保健育成学講座/歯科矯正学分野、  
 口腔保健育成学講座/小児歯科学・障害者歯科学分野、  
 口腔顎顔面再建学講座/口腔外科学分野、口腔顎顔面再建学講座/歯科放射線学分野、  
 口腔顎顔面再建学講座/歯科麻酔学分野、  
 補綴・インプラント学講座/補綴・インプラント学分野、  
 歯科保存学講座/う蝕治療学分野、 歯科保存学講座/歯周療法学分野、  
 口腔医学講座/予防歯科学分野、 口腔医学講座/関連医学分野  
 解剖学講座/機能形態学分野、 解剖学講座/発生生物・再生医学分野、  
 生理学講座/病態生理学分野、 生化学講座/細胞情報科学分野、  
 病理学講座/病態解析学分野、 微生物学講座/分子微生物学分野、  
 薬理学講座/病態制御学分野、 医療工学講座

第1学年 前期・後期

	講義
前期	18 時間
後期	15 時間

## 教育成果（アウトカム）

歯科医学では歯科特有の疾患の予防と治療を扱う臨床歯学を最終目標として学ぶが、その予防法や治療法はすべて体の構造・機能や病因・病態ならびに治癒機構を扱う生命科学に立脚していなければならない。すなわち、歯科臨床は基礎歯学の知識の上に成り立っている。本講義では歯科臨床で高頻度に経験する症例、治療等を提起し、その理解のためには基礎歯学の知識と思考法を身につけることが必須であることを理解することを目的としている。それにより、基礎歯科医学を学ぶうえで、モチベーションが向上し、歯科医師になることを意識した学習態度を身につけることができる。

（ディプロマポリシー：5、6、7、8、9）

## 事前学習内容及び事前学習時間（30分）

本科目は教科書を指定しない。講義前に、各ユニットの到達目標に記されている「事前学習課題」について各自学習してくる。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は本科目の全授業（ユニット）に対して該当する。

## 講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月11日(火) 3・4限	川井忠講師 (口腔顎顔面再建学講座/口腔外科学分野)  藤原尚樹准教授 (解剖学講座/機能形態学分野)	<b>口腔外科の手術と智歯抜去術</b>  内容 口腔外科で行っている手術の概要と智歯抜去の難しさを理解する。	1. 智歯抜去の理由を列挙できる。 2. 智歯抜去の方法を概説できる。 3. 口腔外科疾患と手術の種類を概説できる。 4. 診断・手術に必要な解剖学的知識を整理し、関連する組織構築について概説できる。 [E-1-4)-①、E-1-4)-②、E-2-1)-①、E-2-1)-②、E-2-1)-③、E-2-4)-(1)-③] 事前学習：智歯抜去の理由・方法を参考書などで予習 評価方法：レポート

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月18日(火) 3・4限	佐々木大輔講師 (歯科保存学講座/ 歯周療法学分野)  下山佑講師 (微生物学講座/ 分子微生物学分 野)	<b>歯周病の原因</b>  口腔内二大疾患の一つである歯周病について、その原因から病状進行、症状、治療法までを歯周病原細菌の観点から学ぶことで、論理的な歯科臨床を身につけることができる。	1. 歯周病と歯周病原細菌の関係を説明できる。 2. 歯周病の病状進行を説明できる。 3. 歯周病の症状を説明できる。 4. 歯周病の検査方法を列挙できる。 5. 歯周病の治療法を概説できる。 6. ペリオドンタルメディシンを概説できる。 [E-3-1-⑥、E-3-2-③④、E-3-3-(3)-①②] 事前学習：到達目標の1、2、3について調べ、まとめてくる。学習成果について講義中随時発表機会を設け、フィードバックする。 評価方法：講義後に筆記試験を行う。
6月25日(火) 3・4限	高橋徳明助教 (口腔顎顔面再建 学講座/歯科放射 線学分野)  藤原尚樹准教授 (解剖学講座/機 能形態学分野)	<b>歯科のエックス線画像検査</b>  歯科臨床で行われるエックス線検査がなぜ必要となるのか想起する。 そのエックス線検査画像から診断を得るために解剖学の知識習得が重要であることを理解する。  (本ユニットでは抜去歯を用意し、肉眼所見とデンタルエックス線写真、CBCT写真との比較を体験する。)	1. 実際の歯を事前学習で学んだ内容を踏まえて肉眼で観察し、内部構造を想像する。 2. エックス線画像を観察して、事前学習で学んだ構造や自身が推測した内部構造と一致しているか、答え合わせをする。 3. みられた構造の名称、簡単な役割を学ぶ。 4. 歯科におけるX線検査と解剖学の知識・必要性について、デンタルエックス線写真、CBCT写真と関連づけて説明できる。 [E-1-2)、E-2-1)-②⑥、E-2-4)-(6)-②③] 事前学習：歯の構造について復習しておくこと。 評価方法：レポート(課題：歯科におけるエックス線検査の必要性について)
7月2日(火) 3・4限	田邊憲昌講師 (補綴・インプラント 学講座/補綴・イン プラント学分野)  藤原尚樹准教授 (解剖学講座/機 能形態学分野)  成田欣弥講師 (生理学講座/病 態生理学分野)	<b>過重咬合の弊害</b>  歯科診療において様々なトラブルを引き起こす過重咬合の弊害を学習することの重要性を理解し、今後の基礎的・臨床的歯科医学を能動的に学ぶことができるようになる。  (本ユニットでは講義に加え、実習形式の筋電図計測学習やディスカッションを行う。)	1. 過重咬合圧による疾患を列挙できる。 2. 歯の咬合圧負担のメカニズムを概説できる。 3. 歯周組織や歯の構造について概説できる。 4. 咀嚼筋筋電図から咀嚼筋の働きと咬合の関係を概説できる。 [E-2-4)-(11)-①] 事前学習：キーワード(歯、歯周組織、咀嚼筋、筋電図、顎関節、咬合力、ブラキシズム)について教科書、書籍、インターネット等の媒体を利用して可能な範囲で調べておくこと。 評価方法：レポート
7月9日(火) 3・4限	浅野明子講師 (歯科保存学講 座/う蝕治療学分 野)  佐藤泰生講師 (病理学講座/病 態解析学分野)	<b>頭頸部癌患者の周術期管理 ～チーム医療・多職種連携 を考える～</b>  癌の発生機序と頭頸部癌患者の審美・機能回復と社会復帰について考える。	1. 頭頸部癌の分類・原因について説明できる。 2. 頭頸部癌の診断法について説明できる。 3. 頭頸部癌の治療法と合併症について説明できる。 4. 頭頸部癌術後の口腔ケア、審美・機能回復方法について説明できる。 [C-5-4、C-5-5、C-5-6] 事前学習：頭頸部の癌について、成書等を使って調べておくこと。 評価方法：レポート

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
7月16日(火) 3・4限	玉田泰嗣助教 (補綴・インプラント学講座/補綴・インプラント学分野)  千葉俊美教授 (口腔医学講座/関連医学分野)  野村太郎講師 (補綴・インプラント学講座/補綴・インプラント学分野)  藤原尚樹准教授 (解剖学講座/機能形態学分野)	<b>高齢者に対するアプローチー嚥下機能も含めてー</b>  高齢者の全身状態、口腔内および嚥下機能の変化とその対応について解剖学からの観点も含め理解する。さらに、可撤性義歯の特徴を理解し適応などについても理解を深める。最後まで楽しく健康な人生を送るためには、何が必要とされ、歯科医療は何かができるのかを考える。	1. 高齢者の全身状態の特徴を説明できる。 2. 高齢者の口腔内および嚥下機能の変化と対応について説明できる。 3. 有病高齢者の特徴を理解できる。 4. 高齢者への高頻度歯科治療の種類を説明できる。 5. 高齢者の摂食嚥下機能に関わる人体解剖について説明できる。 [C-3-3)-①、E-3-4)-(2)-①～③、E-5-1)-③⑧～⑩、E-6-①] 事前学習：WebClass に事前資料をアップする。内容を確認しておくこと。これからはどのような社会になり、どのような歯科医療が必要とされると考えているか 500 字程度でまとめてくること。事前学習成果について講義中にディスカッション方式でフィードバックを行う。 評価方法：講義の最後に確認試験を行う。
9月18日(水) 3・4限	近藤尚知教授 (補綴・インプラント学講座/補綴・インプラント学分野)  平雅之准教授 (医療工学講座)  石崎明教授 (生化学講座/細胞情報科学分野)	<b>インプラント治療</b>  歯を失った時の治療方法としてのインプラント治療について、その方法的、材料学的あるいは生体的側面よりアプローチすることにより、最先端歯科医療について理解する。  (本ユニットでは、各専門分野の講師からの講義を聴き、インプラント治療を総合的に理解する。)	1. 歯の補綴方法を列挙できる。 2. 生体材料について概説できる。 3. 骨代謝について概説できる。 [C-2-4)-②、C-3-4)-(2)-④⑤、D-2-⑤⑧、E-3-4)-(1)-①、E-3-4)-(2)-②、E-3-4)-(3)-①②] 事前学習：歯科補綴とは何かについてまとめておく。 評価方法：レポート
10月30日 (水) 3・4限	岸光男教授 (口腔医学講座/予防歯科学分野)  加茂政晴准教授 (生化学講座細胞情報科学分野)	<b>ライフステージによる齲蝕のちがい</b>  専門的学習を行うためには課題発見能力と批判的態度を身につける必要があることを学び、能動的学習ができるようになる。  (本ユニットでは主としてグループ討議、プレゼンテーションを行う。)	1. 齲蝕についての平易な解説から自分が理解していないキーファクトを抽出する。 2. キーファクトの科学的理解に必要なキーワードを抽出する。 3. 上記プロセスを批判的に考察する。 4. グループ討議に参加する。 5. 臨床歯科医学と基礎歯科医学の関連を説明できる。 [A-2-1)-①～④、A-2-2)-①②、A-8-1)-②] 事前学習：PBL の方法を確認しておくこと。 評価方法：レポート

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月13日 (水)  3・4限	森川和政教授 (口腔保健育成学 講座/小児歯科学・ 障害者歯科学分 野)  佐々木実教授 (微生物学講座/ 分子微生物学分 野)  入江太朗教授 (病理学講座/病 態解析学分野)	<b>齲蝕の進行過程を追う</b>  齲蝕の進行を齲蝕原性細菌の感染と齲蝕病変の歯と歯周組織への波及という観点から理解できるようになる。  (本ユニットでは講義の中で、教員とのディスカッションの機会を設ける。)	1. 齲蝕病変進行の病理を概説できる。 2. 口腔フローラと齲蝕病原性細菌について説明できる。 3. 齲蝕原性細菌の伝播を概説できる。 [E-3-2)-①②④] 事前学習：齲蝕、齲蝕の進行について関連する教科書を読んでまとめておく。 評価方法：レポート
11月27日 (水)  3・4限	三浦仁助教 (口腔顎顔面再建 学講座/歯科麻酔 学分野)  田村晴希講師 (薬理学講座/病 態制御学分野)  成田欣弥講師 (生理学講座/病 態生理学分野)	<b>歯科治療における全身管理</b>  全身管理法の概要とその理解に必要な生理学、薬理学の学習内容を理解する。(各自事前に作成したレポートを発表する能動的学習を行う。)	1. 精神鎮静法の内容、目的、適応、禁忌、種類、実施法を概略できる。 2. 精神鎮静法に使用する薬剤の種類と特徴、作用機序を概略できる。 [E-1-3)-③、E-1-4)-(1)-①②⑥、 E-1-4)-(2)-①～④] 事前学習：『歯科治療時の不安や体験談』について、講義までに発表するレポートを各自作成する。 評価方法：レポート
12月11日 (水)  3・4限	間山寿代講師 (口腔保健育成学 講座/歯科矯正学分 野)  大津圭史准教授 (解剖学講座/発生 生物再生医学分 野)	<b>歯数の異常と歯の発生のメカニズム</b>  歯数の異常に関する臨床症状と、歯の発生学、再生医療との連携を学ぶことで、歯科医療に寄与する基礎研究の魅力が理解できるようになる。 (講義後、グループ討議、プレゼンテーションを用いた能動的学修を行う。)	1. 歯数の異常について概説できる。 2. 歯数の異常が及ぼす影響を列挙できる。 3. 歯の発生のメカニズムを概説できる。 4. 歯の再生研究の意義を理解できる。 5. 講義の中から関心のある研究テーマを抽出し、グループ討議を通じてプレゼンテーションができる。 [E-3-1)-①③] 事前学習：組織学・発生学・口腔組織学テキストの「歯の発生」項目を読みまとめておく。 評価方法：レポート

## 成績評価方法

講義(ユニット)毎にレポートまたは講義後に行う筆記試験により評価する。レポート、筆記試験ともに得点化し、ユニット毎の評価点の平均点 60 点以上を合格とする。レポート、筆記試験とも、採点後にコメントを付して返却する。

## 特記事項・その他

レポート提出は原則的に WebClass を使用するもので、使用法を確認しておくこと。  
それ以外の場合は各ユニット責任者の指示に従うこと。  
事前学習結果の確認のため講義・演習中に適宜口頭で質問するので回答の準備をしておくこと。得られた回答に関しては教員がその場でコメントしてフィードバックする。